第4回インターンシップ報告書

2011年11月5日
国際協力専攻1年
太田華江（5311005）

【基本情報】
派遣先：UNESCO Office in Windhoek
都市：Windhoek, Republic of Namibia
勤務部署：Education Section
派遣期間：2011 年 8 月 11 日～2012 年 2 月 20 日

1. 業務内容の報告（10 月 1 日~11 月 4 日）

長期的業務に関して、以下 3 点。

① UNICEF との共同プロジェクト→NGO と Web portal 作成の契約を結び、作業が始まった。今月中に、Web portal のデザインについて Meeting を行うことになっている。センターのパソコンには未だ電気が戻っていない。センターの担当者によると、現在プロセス中とのこと。いずれにしても、時間がかかりそうだ。

② Research Project→ナミビアにおける多言語教育の現状や様々なアクターの動きを調べている。他の仕事が重なっているため、現在はストップしているが、Research Project 2 と共通する部分が多いため、同時並行していると言ってもよい。

③ Research Project 2→少数民族のサンというグループの教育問題について調べている。サンは南部アフリカの原住民族で、主にナミビア北部で暮らしている。彼らは元々猟で生活を営んできたが、他民俗の占領により土地を追われてきた。元々食糧を得ていた土地を失い、経済にも取り込まれることもなく失業率も非常に高いため、サンは極めて貧困なグループとされている。サンの子ども達は、他のグループに比べて極めて教育達成度が低い。多くは、1 年生で学校を退学してしまう。理由としては、貧困、学校へのアクセス、言語問題、差別、親の教育認知度の低さなどがあげられている。UNESCO も、サンの子ども達に対するプロジェクトを行っている。現在、サンの教育を支援する政府機関、NGO、ODA のプロジェクトがあるが、国全体としてコーディネーションがとれていない。それらのアクターを集めた話し合いの必要性や、サンに対する教育の選択肢を増やすことが求められている。私は主にサンの問題に関わるアクターや研究者との話し合いに参加をし、ミーティングをセッティングするなどしている。そのほか、ミーティングで話し合う資料の整理・準備や、プロポーサルの作成などを任されている。非常に面白く、自らの研究もサンにフォーカスするつもりである。

その他、今月も幾つかの会議に参加した。

＜10 月 13 日　ECD に関わる NGO の集会＞

ナミビア国内で ECD に関わる活動をする NGO が集まり、今後政府にどのような働きかけをしていくべきかが話合われた。UNESCO はアドバイザーとして招かれた。

＜10 月 19 日―21 日 The Education and Training Sector Improvement Programme (ETSIP)の評価会議＞

ETSIP はナミビアの教育セクターが掲げた教育問題に関する 15 年計画（2006-2020）である。2011 年はその中間地点であり、ECD～高等教育、また ICT 教育などについて、教育省が行ってきた活動の評価発表が行われた。

2. 到達目標の達成具合

以下、第 1 回レポートで挙げた目標について評価していく。

① 国際機関の役割と実際の運営について、実務を通し理解する

この 2 カ月、UNESCO のインターンとして業務を行うことで、UNESCO という組織の物事に対する考え方やアプローチの取り方を理解してきた。どのような場でも、UNESCO という立場から物事を見る必要があるが、それが自分の意見と違っている場合もあり、複雑な場面も幾つかあった。（9 点）

② 自身の研究を深める

上でも述べたが、サンについて研究をすすめていきたい。先月はサンに関わってきた研究者の方との出逢いや、様々なアクターとの話し合いの機会が持てるなど、とても充実していた。しかし、より多くの資料や論文を読む必要性を痛感している。（7 点）

③ 現地の教育現場の現状を理解する

UNESCO はポリシーレベルの活動が多いためか、教育現場を見学する機会が少ない。かろうじて、研究者やアクターとの話し合いの中から少しずつ情報を得ることはできている。（4 点）

④ 総合的に問題を考察する目を養う

新聞は読んでいるものの、より多くの情報を得る必要性があることを感じている。ECONOMY 雑誌など探して、読むことを積極的に行っていきたい。（5 点）

⑤ ビジネス英語

コントラクトや TOR の作成を行うなど、非常に勉強になることが多かった。今後も、積極的に学んでいきたい。（7 点）

⑥ 豊かな発想力を養う

先月は多くのリサーチを行い、主にサンに関する様々なアクターのプロジェクトを考察し、考えることが多くあった。しかし、政府や他団体との話し合いでは、やはり

UNESCO の立場から発言し、物事を提示することが求められていることを強く感じる。私は、まだそこまで器用に動ける準備ができていない。（5 点）

前回、もっと現場に関わる作業もしてみたいと記したが、UNESCO のインターンとしては正直難しい。しかし、NGO などと関わることにより、間接的ではあるが現場とのつながりも感じている。

その他、重要な件としては、パレスチナの UNESCO 加盟により、アメリカの負担金が凍結され、UNESCO 全体の Budget の 22%が削減されることになった。Budget が既に凍結されているため、現在オフィスはあわただしくなっている。今後、どうなるか上司達が話し合っているところである。